

## 百種以上の本格日本食品が武漢に登場

今年は武漢市と大分市が友好都市を締結して 30 周年になる。農業博覧会会場にて、大分市の食品が展示された。

大分市久渡晃副市長が率いた大分市代表団は武商量販有限会社と協力して、武商量販スーパー生活館、水果湖スーパー生活館、百聖店、常青花園店にて、日本食品の専用売場を設置し、17 日まで日本大分市食品フェアウィークを行う予定である。

関係者によると、今回の食品ウィークは 4 種類の食品カテゴリーに分かれており、「特製調味料、レジャー食品、酒類、飲料」、例えば、「豊後とり天の調味液料」、「海洋深層の塩」、「大分カボスワイン」、「ポテトチップス」、「カボスクッキー」などがあり、数元のものから百元以上のものまでの価格帯も様々、ほとんどの商品は初めて武漢市場に入る。

大分市は総面積 501,25 km<sup>2</sup>、人口 47 万、農産物が生産されている。農業博覧会において、大分市は 5 つの展示ブースに 11 社の地元企業が 42 種類の特色ある商品を展示し、中には日本国内で生産量が最も多い麦焼酎や大分で最も人気がある郷土料理「豊後天ぷら」、及梅酒、健康ポテトチップス、桃太郎のりなどの特産品がある。

## 第 6 回中国農業博覧会が武漢国際コンベンションセンターにて閉幕

第 6 回中国武漢農業博覧会が武漢国際コンベンションセンターにて閉幕した。今回の農業博覧会は初めての国家レベルの農業イベントであり、出展企業及び商品は「百花繚乱の状態であった」である。開幕初日は各地の商人および市民 8 万人以上が訪れ、見学や買い物を楽しんだ。

8 万平方メートルの展示会場には、農業清品や武漢都市圏、湖北省にある他都市ならびに他の省、農業機械など 8 つの展示ゾーンに 2000 を超えるブースが設置され、国内外より 1000 社以上の企業が出展、展示分野は農業ハイテク科学技術、農業機械、農産物や副産物、優良な果物、野菜、花卉、米、綿花、油など大量の農産物が含まれた。カルフル、上海華聯、武漢中百スーパーなどの国内外 61 社の大型デパートが参加し、商談や買付を行った。展示されている農産品は 1.6 万以上の農産物が展示され、その他 5000 人以上のバイヤー、農業資材代理店、農業技術普及人員、農村第一線の幹部、科学技術モデル農村企業などの専門入場者が会場に招かれ、見学や協議を行った。

「ブランドイノベーション、エコロジー」をテーマとする第 6 回中国武漢農業博覧会は湖北省武漢市にて閉幕した。国内外 1000 社以上の企業から、1.6 万種以上の農産物が展示され、湖北省の 1 万人大型農業者が特別に招へいされた。情報によると、農業博覧会における農産物の取引額は 3 億元を超え、農業投資プロジェクト及び農産物の発注契約協議金額は 42 億元に達した。

## 世界初の時速 350 キロメートルの高速鉄道が年末に開通

武漢広州高速鉄道は無砂利軌道を採用し、距離が最も長く、また世界で初めて時速の時速 350 kmに達した旅客運輸専用線である。これは国慶節の期間中に試運転を成功させており、年内には開通される見込みである。開通すれば、武漢市から広州の運行時間は現在の 10 時間 30 分から 3 時間にまで短縮され、中国鉄道の発展史上における新たな里程標となる。

新華社の報道によると、10 月 3 日から 4 日にかけて、鉄道部の党グループ書記兼部長である劉志軍氏は今年第 3 度目の武漢広州旅客運輸専用線の視察を行い、総合試験と現場での指揮を執行したほか、同専用線全コースの往復試験を行い、列車の持続運行時速は 350 kmに達することを発表した。

### 武漢広州 7.5 時間短縮

武漢広州旅客専用線運行距離は全長 1068.6 km。開通後、武漢から広州までの運行時間は現在の 10 時間 30 分から 3 時間にまで短縮され、北京広州鉄道と武漢広州の間の運輸ストレスを根本的に解決できる。予測によると、2030 年までに同線の利用者数は 1 億人を超えると見られており、膨大な数の旅客が「武漢広州沿線都市圏」の繁栄を大いに促進する。

## 来年満 60 歳高齢者「高齢者カード」来月事前申請可能

来年、武漢市在住で来年満 60 歳と 65 歳を迎える高齢者は来月、事前に高齢者カードを申請することができる。

高齢者の方が適時各種高齢者優遇政策を享受できるよう、武漢市は来月から、2010 年度の「武漢市高齢者優待カード」の受理業務を開始する。

1945 年 12 月 31 日以前に生まれた者は無料乗車サービス付の「武漢高齢者優待カード」を申請することが可能である。また 1950 年 12 月 31 日以前に生まれた者は無料乗車サービスがない「武漢高齢者優待カード」を申請することが可能である。

申請者は戸籍所在地の自治体にて申請することができる。「高齢者カード」を手に入れると高齢者の方は早速各種優遇政策を享受することができる。

## 2009年11月19日付け 第六回武漢国際諮問会議開催

11月19日、2年に1度の武漢市政府国際諮問顧問団第六回会議が武漢市政府ホールにて開かれた。国際諮問顧問19人が武漢市に集まり、武漢市の今後の発展に合理的なアドバイスを提出した。

武漢市長阮成發氏は当会議でテーマ講演を行い、武漢市は伝統的な工業都市及び科学教育基地であるが、今後は戦略的な経済構造の調整と循環型産業の発展に力を入れること、対外開放のさらなる拡大により、内陸地区から海外転移の架け橋になるだろうと表明した。「両型社会づくりの実施と開拓の中で、武漢市が直面しているいくつかの困難、例えば市の発展レベルがまだ低いことや就職難、制度の制約による資金不足などに対して、国際諮問の専門家の皆さんには忌憚なく意見を述べていただき、武漢市の両型社会の建設に確実な見解を提供していただきたい。」と語った。武漢市政府も専門家らの知恵と力を借り、国内外の成功例と手段を参考にし、改革実験に応用し、武漢市を中国における両型社会づくりのモデル地区にまで発展させるとの考えを明らかにした。

みずほ銀行の斉藤宏氏、日立会社の大野忠信氏をはじめ、フランス、オランダ、香港地区からの7人の顧問が中国先端技術の発展、武漢にとって内需拡大の重要性、高度科学技術による都市の持続可能な発展の促進、武漢のビジネス環境と都市機能のレベルアップなどの問題に沿って発言し、武漢市の将来的な発展のため貴重な意見を提出した。

発言が終わると武漢市の幹部らが関連する問題やソフト実力、都市ブランド、都市の新しいチャンス、文化イノベーション、中日企業の合作などの問題について顧問たちと意見を交換し、理解を深め、武漢市都市圏両型社会づくりを促進した。

今回の会議は「省エネルギー環境友好 - 武漢の新型工業化、都市化の発展道」をテーマとしており、国際的な有識者19人が参加し、「新型工業化とハイテク産業、都市建設と金融支援、都市機能のレベルアップと計画的実施、省エネ環境保全と都市エコロジー文明の建設、グリーン消費と都市文化育成」の五つの話題について、武漢市の幹部らと交流や意見交換を行った。



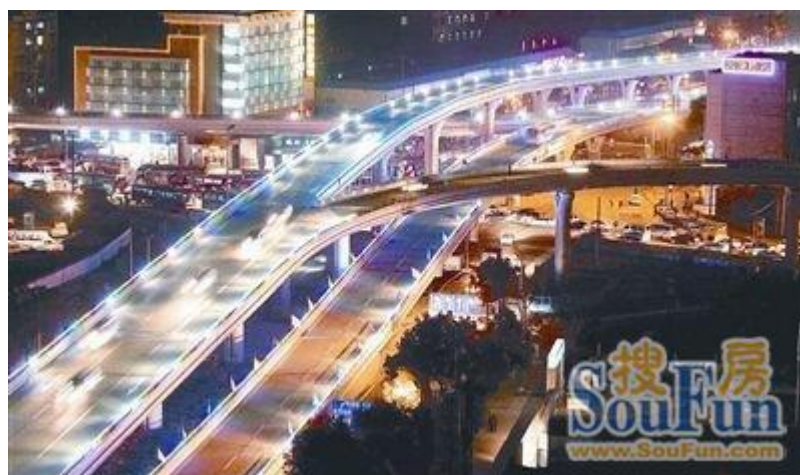
コンサルティング会議現場

2009年11月20日

### 「最も美しい立体交差点」が武昌のラッシュポイントを緩和

昨夜6時、卓刀泉北路ならびに南路から左折し、珞喻路へ向かう車は交差点で信号待ちをする必要がなくなった。二本の陸橋ができ、「立体左折交差点」が登場したからである。

2年間の建設期間を経て、卓刀泉立体交差点は正式に開通し、これによって長い間珞喻路において最も渋滞していた地点のラッシュが緩和された。



卓刀泉立体交差点